

## 第 68 回リンドウ・ノーベル賞受賞者会議 参加報告書

所属機関・部局・職名： 京都大学大学院 医学研究科 博士課程 3 年

氏名： 西川佳孝

1. ノーベル賞受賞者の講演を聴いて、どのような点が印象的だったか、どのような影響を受けたか、また自身の今後の研究活動にどのように生かしていきたいか。[全体的な印象と併せて、特に印象に残ったノーベル賞受賞者の具体的な氏名(3名程度)を挙げ、記載してください。]

講演 1: ルイ・イグナロ先生。とにかく講演が面白かった。良いプレゼンテーションが何か、というものを思い知らされた。アイス・ブレイキング、起承転結の展開、など、笑いは世界共通だと感じた。実績はさることながら、人を引きつけるプレゼンテーションは、身に着けなければならないと感じた。

講演 2: スティーブン・チュー先生。非常に視野が広く、衝撃を受けた。科学を進めるために、汎用性の高い研究をおこなう一方、社会問題に対する造詣も極めて深く、知の巨人、といった印象だった。超音波など、医療に応用できる分野の研究を推進されていることも非常に感銘を受けた。また、自身が米国エネルギー庁の長官を務められた経験からか、気候変動などの地球環境問題にも果敢に取り組まれていることなど、印象に強く残った。

講演 3: 大隅良典先生。オートファジーによる受賞で、今年初参加されていた。特に初期の着眼点、研究開始および継続についてお話をうかがえて良かった。あまり人気のない分野を継続することも大切、というメッセージが強烈だった。初めは人気のなかったオートファジーの研究を根気強く続けることで、世の中において、ホットな分野になったとのこと。日本人として、大隅良典先生のはじめてのご出席の機会に臨席出来て非常に光栄だった。

2. ノーベル賞受賞者とのディスカッション、インフォーマルな交流(食事、休憩時間やエクスカージョン等での交流)の中で、どのような点が印象的だったか、どのような影響を受けたか、また自身の今後の研究活動にどのように生かしていきたいか。[全体的な印象と併せて、特に印象に残ったノーベル賞受賞者の具体的な氏名(3名程度)を挙げ、記載してください。]

ロビン・ウォレン先生：ピロリ菌の発見者であるウォレン先生と初日のディナーに同席させて頂く機会をいただいた。病理医として、これまで発見されていないものを発見する心構えの大切さを教わった。どうしてマーシャル先生との研究だったのかとお聞きしたら、「彼が病理を見に来る消化器内科医だったからだよ」という非常に明快な回答をいただいた。消化器内科医として憧れのウォレン先生とディナーの機会をいただき、この上ない光栄であり、アドバイスいただいたことは忘れず、常に、何か知られていないものを探すマインドを持って日々の知的活動に当たることを心に誓った。

スティーブン・チュー先生：チュー先生とは、ランチをご一緒させていただいた。政治と科学のそれぞれの側面から、それぞれの仕事はどう相関しているか、など、お聞きした。自国の原子力発電所に対する意見もお聞きしたが、リスクのないエネルギーはないので、安全性の正しい評価と、バランス感覚が大切だ、というとても偏りのない意見をうかがった。

アブラム・ハーシュコ先生：オープンイクスチェンジ（意見交換）セッションに参加した。ハーシュコ先生に限らないのだが、講演やパネルと違い、率直な意見を聞くことが出来た。サイエンスに関することはもちろんなのだが、メンターシップ、家族や子育てとの兼ね合いなど、具体的な話を聞くことが出来てよかったと感じた。

### 3. 諸外国の参加者とのディスカッション、インフォーマルな交流の中で、どのような点が印象的だったか、どのような影響を受けたか、また自身の今後の研究活動にどのように生かしていきたいか。

カール・ヘンリック・ヘルディン先生：現在、ノーベル財団の Chair を務められている。実は、本会議よりも 8 年前に、学生時代に宮園浩平先生（東京大学）のご紹介で、ヘルディン先生の研究室へと短期留学の機会をいただいた。その際には、研究室のメンバーに大変あたたかく迎えていただき、スウェーデンでの研究生生活のみならず、文化・歴史など、多面的に勉強させていただいた。今回、オープニングとディナーに出席されており、偶然の再会を果たすことが出来た。そして、私が研究活動を続けていることを喜んでくださった。宮園先生、日本学術振興会、リンダウ会議にいただいたご縁と思い、ヘルディン先生との繋がりは、これからも大切にしていきたい。

レクチャーの合間に、近くにいる若手研究者と話すこともあったが、非常に聡明な方が多く、刺激された。多くは基礎医学研究者であったが、臨床・社会医学分野の参加者もおり、アメリカでの予防医療プログラムや、スペインでの循環器内科症例登録の話など、その苦労話も含めて、かなり具体的な意見交換が出来た。

遺伝子組換え技術に関する議論を行ったが、「医師として」意見を求められる場合もあり、現場と研究サイドの意識の共有の難しさ・大切さは各国共通だと感じた。

最終日のディナーイベントでは、それぞれの伝統服を来て参加していたので、色々な国の文化を垣間見ることが出来た。

また、本会終了後に、私は、バーデン・ビュルテンベルク州の主催する、ポスト・カンファレンス・プログラムに参加させていただいたのだが、リンダウ会議の中から選出された 20 名の参加者は非常に繋がりが強くなった。参加国は 14 に及び、バランスよく交流できた。このような繋がり、今後の研究の進展に必ず有効であると考え（講演の招待・こちらからの訪問など）。

4. 日本からの参加者とのディスカッション、インフォーマルな交流の中で、どのような点が印象的だったか、どのような影響を受けたか、また自身の今後の研究活動にどのように生かしていきたいか。

同時に参加した日本人の方が音頭をとってくださり、オープニングセレモニーの日に皆でランチに一同に会することができた。これは極めて有効で、会期を通じて、大変親しくさせていただいた。

私の周囲には医師が多く、診療+研究というスタンスの方が多いが、純粋な研究者の方々が、どのような視点を持ち、どのように研究活動しているかがわかり、有意義であった。

皆とはソーシャルネットワークでの繋がりも出来たので、生涯を通じて切磋琢磨していく仲間になるだろう。自分より年齢が上の方も、下の方も居て、分野も様々であったので、自身の研究活動において、良い刺激が生まれることを確信している。

5. 特に良かったと思うリンダウ会議のプログラム(イベント)を3つ挙げ、その理由も記載してください。

**オープニングセレモニー**：ウィーン・フィルハーモニーの五重奏であった。良いサイエンスをするには、良いものにインスパイアされることが大切だと。音楽はその一環だそうだ。私は、その美しい音色・雰囲気にとただただ感動した。学術会議に、一流の音楽家を呼ぶのは素晴らしい取り組みだ。

**ディナーイベント**：ノーベル賞受賞者と隣合わせで食事をするチャンスがあった。ノーベル賞受賞者から、ダイレクトな意見を聞くことが出来、極めて有意義だった。事前申し込み制ではなく、着席順であったので、参加者は、目当ての受賞者を探し、近くの席を確保するのが良い。

**ランチイベント**：ノーベル賞受賞者と並んで、ランチが出来るイベント。事前申込制だが、ディナーイベントと同様、非常に多くのことを学べた。壇上では聞きづらいような、個人としての意見や、ライフワークバランスのありかた、ご家族のことなど、色々と学んだ。

6. その他に、リンダウ会議への参加を通して得られた研究活動におけるメリット[具体的な研究交流の展望がもてた場合にはその予定等を記載してください。]

同時参加の方々とは、将来、共同研究を行うことを誓った。

研究室の運営（ジャーナルクラブ、個別のメンタリング、研究費の獲得など）について、ノーベル賞受賞者の意見を聞くことが出来た。

JSPSからお越しの方とお話出来たのも、大きかった。JSPSの方が、どのような思いで普段活動くださっているのかがわかり、その研究者を育みたいという心に強く心を打たれたし、私自身も貢献したい。

## 7. リンダウ会議への参加を通して得られた上記の成果を今後どのように日本国内に還元できると思うか。

リンダウ会議での参加の経験は、私の科学者としての在り方に大きく影響したし、以下のように、還元できると思う。

第一に出来ることは、今回の経験を周囲の方へと伝えることである。一流の科学者がどのように考えていたかということ、実際の経験に基づいて話伝えることが出来る。私がもし、先輩から、リンダウ会議の参加報告を聞いていたら、非常に心を動かされただろう。まずは、所属研究室において、参加報告会を行った。この経験を伝える活動は、続けて行きたい。

第二に、自身の研究を成果物として結実することだ。このような多国籍、多分野にまたがる会議ははじめてだったが、非常に多くのインスピレーション（現在・次の研究への着想）をいただいた。個人として、また、参加者とのコラボレーションを通じて、今後、新たな知見を科学会に還元できることを確信している。

第三に、いただいた縁を他の方につなぐこと。今回、私は39人の受賞者、600人の若手研究者、ほか、多くの関係者と、臨席することが出来た。リンダウ会議は、強固なアルムナイ・ネットワークがあるため、何か重要な事項・喫緊の事項があれば、このネットワークを通じて、発信することが出来る。

## 8. 今後、リンダウ会議に参加を希望する者へのアドバイスやメッセージ

お読みいただき、ありがとうございます。

少しでも気になった方は、是非、応募してみてください。

一旦研究の手を止めてでも、行く価値があります。

後悔先に立たず、です。